

できたらいいな、こんなこと！ 多目的屋内施設ワークショップ



第2回
9/11
(日)

多目的屋内施設を考えよう

1回目のワークショップで考えたこんなまちになってほしいと希望する豊橋の将来像から、多目的屋内施設や豊橋公園、豊橋駅前を含むまちなかなどに求められる機能を考え、話し合いました。

AM10:00~12:00 こども未来館ここにこ 研修室A・B
参加者: 20~70代 16名(欠席者3名)



前回の振り返り・アイスブレイク ~グループ内自己紹介~

前回に引き続き、ファシリテーターに愛知学院大学 准教授の内藤 正和先生をお招きし、前回の振り返りと今後のワークショップの進め方についてお話をいただきました。

第2回のグループは、1回目のワークショップとは異なるメンバーでグループを組んだことから、改めてグループ内で自己紹介を行い、グループ内での共通点を3つ考えるアイスブレイクを行いました。



グループワーク① ~「将来像実現のための具体的アイデア」~

前回出た意見から抽出した4つのキーワードに沿って、将来像を実現するために具体的に何が必要であるかを話し合い、アイデア出しを行いました。



自然や文化を感じる街

にぎわいがある街

子育てをしたい街

歩きたくなる街



グループワーク② ~「アイデアのグルーピング」~

具体的内容のアイデアをどのように実現させるのか、アイデアを分類しながら、取捨選択を行い、意見を深堀していきました。

まず、内藤先生から施設を整備することを考えるにあたって参加者の皆さんに複合化の意味やまちづくりの手段の理解を深めるためのレクチャーがありました。施設の内外や敷地内外の機能をまとめることで、スポーツだけではなく様々な用途で使えるようになり、スポーツをする人、しない人など様々な人が利用することができ、まちづくりにつながっていくというお話をいただきました。

①多目的屋内施設
の機能・内容

②豊橋公園
の機能・内容

(+a) 豊橋駅・駅前など
まちなかに求められるもの

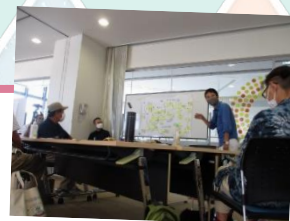


グループ発表

グループワーク①②で出た意見をまとめ、グループごとに発表を行いました。

Aグループ

- ・土日の大きな興行だけでなく、一般人でも日常的に使えるようにした方がいい。
→公園北側の沖野エリアが魅力的であるため、ビュースポットなどがあるといい。
- ・公園の中の自然は守りつつ、沖野地区に駐車場を設けるなどして自然との調和を図れるといい。
- ・木・土を残す、周辺の生物相を残したい、重層的に歴史が重なっている場所のため、遺跡などの説明や価値のPRをした方がいい。
- ・市役所、吉田城、東海道など文化のポテンシャルがあるところにアリーナのような目玉の施設を作るのに加え、日常的に使えるようなものを設置することで多くの人利用でき、街の中の活性化につながるのでは。
- ・豊橋が活性化するのに、人々が住みよと感じ、子育てなどの理由でUターンしてくるまちにするのが大事。
→居心地がよく、自分たちのやりたいことがやれる場所として豊橋公園はあるべき。



内藤先生コメント

自然や歴史、戦争の説明が聞ける、語る人の話が聞けるというのは良い意見だなと感じた。その他にもたくさんアイデアを出していたのがよかった。

Bグループ

- ・話し合いのキーワードは「自然に人が集う場所」。
- ・施設内では、一人で遊びに行っても様々なスポーツのコミュニティに入れたり、スポーツ後に休憩できる場所で初めて会う人ともコミュニケーションがとれるような居心地の良い空間になっていくとよいと思う。
- ・商業施設の中で、学生が企画しチャレンジができる場所も設けることができれば、子どもは「遊ぶ」、学生は「チャレンジする」、年をとったら子供や孫を「遊びに連れていける」場所として、いろんな世代の方に思い出の残る場所になる。
- ・豊橋公園周辺としては、快適に休憩できる場所や、ベンチがたくさんあり座れる場所、疲れたと感じたとき一息つける場所、気ままに読書などゆっくりできるようなスペース、寝転ぶことができる芝生など、多世代の人が豊橋公園で快適に過ごせ、居心地のいい場所になることを考えることが必要。
- ・まちなかを軸に考えると、交通渋滞の解消や、きれいで段差のない道路、年代を超えお年寄りの方でも小さいお子さんでもアクセスしやすい場所にするべき。



内藤先生コメント

学生チャレンジのアイデアはすばらしいと感じた。

Cグループ

- ・施設について、若者から高齢者までが使えるようなものにしてほしい。
- ・施設の在り方について、総合体育館の過密化や老朽化の問題に立ち返ると、規模や場所の見直しも考えられるのでは。豊橋公園の自然は城址の場所のみ残せばよいのではなく、城址とつながっている樹木を守ってこそ今の環境が保たれるし、樹木を伐採すると2～3度気温が変わってしまうため、その面でも心配がある。
- ・オンラインシステムを活用し、のんほいパークまで取り込んだオンラインでのイベントなどもできるといい。
- ・豊橋公園は、非常に歴史があり自然も豊かであるため、守りつつ、豊川も一体とした整備を行ってほしい。
- ・市内では小学生の持続可能な学習として「ESD (= Education for Sustainable Development)」に取り組んでいるが、SDGs 宣言も併せて、豊橋公園で環境学習ができれば、市の目指すSDGs 未来都市にもかなう。なるべく今の形を十分生かして活用してほしい。
- ・公園はストレスを和らげ、心が疲れた人が気持ちをとり戻せる役割も持っている。スポーツなど体の健康だけでなく、心の健康も考えてほしい。
- ・まち全体として、駅から公園は距離があるため、歩きやすい空間にしたらいい。
→電動アシスト自転車をつかえるようにしたらいい。
→歩いてきた中で時々休憩できるようなスペースを設置
→まちなかが一つの公園のような形になるイメージ

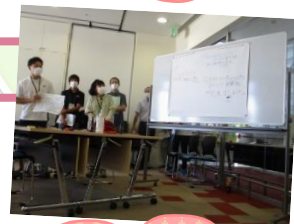


内藤先生コメント

健康というところで、心の健康をとらえたところはいい所だと思った。

Dグループ

- ・施設の中にフィールドアスレチックを作れば人が増えると思う。新城市のフォレストアドベンチャーは、休日には300人程度県外からの入場者数がある。
- ・豊橋公園内では、あるがままの自然を残すということで、巨木や美術博物館の充実により、よりよくなる。
- ・まちなか全体としては、自分たちで参加できるまちづくりの体験をしてもらうことで、例えば子供と一緒に街づくりの面で、花壇に花を植えてもらう、ゴミ拾いをやるときれいにもなるし、冬にはイルミネーションを考えてもらえるといい。



内藤先生コメント

新城のフォレストアドベンチャーに行ったことがあるが、本当にお子さんがたくさんいると感じた。

Eグループ

- ・アリーナを新設することによってプロスポーツチームの招待ができる、コンサートやイベントによる集客が見込める。
- ・これまで大きな体育館などの施設は県や市が整備してきたが、民間の知恵やお金を何とか呼び込んで一体として整備をしていこうというやり方がある。民間の資金を活用して効率の良いアリーナ整備をしていこうということが、模造紙に出した「民間」というキーワードになる。
- ・民間の問題は規模感であり、豊橋公園では大きすぎると思う。度が過ぎないようにしてほしい。
- ・豊橋公園のアドバンテージとしては豊川が挙げられる。アリーナと豊川を一体整備することで、豊川リバーウォークと題して、川沿いを歩くイベントもできるのではないかな。
- ・まちなかににぎわいがあるという意見は同じであるが、アリーナを整備するのは豊橋公園でなくてよい。ただ、豊橋公園の使い方のポテンシャルはあり、ウォーキングやお茶を飲むなどゆっくりする場所として、豊川の川沿いで日常的な過ごし方ができる使い方考えた整備の仕方を考えるべき。
→アリーナがなくても健康的でにぎわいのある素敵な公園になると思うし、今ある日常を壊すことがない。
- ・アリーナに来る間に多くの人歩いてもらえるような区域として「まちなかウォークアブル区域」を作成すれば、より多くの人に来てもらえるのではないかな。
- ・前回発表されたグループの意見で居心地の良さ、土日の賑わいだけでなく、日常的な賑わいをつぶさず活かして、賑わいを作っていけるきっかけの場所として考えていければいい。



内藤先生コメント

これまで、河川敷というキーワードは出ていなかったもので、そこに目を付けたのは素晴らしいと思った。

今後について

10/23
(日)

第3回
イメージ図
を作ろう

問合せ先
豊橋市役所 文化・スポーツ部
多目的屋内施設整備推進室
電話：0532-51-2864

